

[007]附属循環型社会システム工学研究センター活動 報告 : 7

<https://doi.org/10.15017/2551024>

出版情報 : 附属循環型社会システム工学研究センター活動報告. 7, 2015-06-24. Research Institute of Environment for Sustainability, Kyushu University

バージョン :

権利関係 :

深刻化する地球環境問題とアジアの環境問題に 対処できる附属センターを目指して



九州大学大学院工学研究院
工学研究院長 高松 洋

2008年4月に旧工学研究院附属環境システム科学研究センターが改組拡充され、5年を期限とする附属循環型社会システム工学研究センター（以下、附属循環センター）が誕生いたしました。工学研究院の附属施設であるこのセンターは、環境問題を解決するため、我が国だけでなくアジア地域の環境保全に関する応用研究を行う目的で設立されました。これまで、循環型社会、環境共生型社会の実現のため、環境負荷となる排出、エネルギー消費、経済性を考慮した総合的な視点から持続可能な循環型社会の構築に寄与する環境技術開発の研究を実施して参りました。

2011年12月には外部委員を含む中間評価委員会による中間評価を受けました。その結果、研究業績、社会連携活動、国際協力、教育・啓発活動、外部研究資金の5つの評価項目のいずれにおいても高い評価をいただいて継続が認められ、今年で設立8年目を迎えました。その間、中間評価委員会から指摘を受けました附属センター内の研究室間の連携強化および教育・啓発活動の強化に重点的に取り組んで参りました。連携強化のためには、学生を交えた研究交流会を定期的で開催しております。その結果、人材交流が活発化し、親睦が深まっただけでなく、研究情報の共有により具体的な連携の可能性が広がりつつあります。一方、東アジア環境研究機構の東アジア環境ストラテジスト育成プログラム（JST）へ積極的に関与することにより、アジアの環境問題を実践的に解決できる環境人材の育成にも貢献してきました。さらに、市民を対象とした公開講座を定着させ、啓発活動を積極的に行っております。今年からは2万人が訪れる「ビジネスショウ&エコフェア2015」に特別協力させていただき、研究フォーラムや展示会を通して日頃の研究成果を情報発信して参ります。

今年は、1年後に予定されている2回目の中間評価と3年後に控えた附属循環センターの改組拡充に向けた取り組みを始める重要な年と位置付けています。成長著しいアジア諸国の環境問題、顕在化する地球温暖化と異常気象の影響で生ずる地球環境問題、PM2.5などの越境汚染問題、さらには頻発する自然災害に伴う環境問題にこれまで以上に取り組んで行く必要があると考えています。そのためには、工学研究院全体との連携体制による附属センター運営が必要であり、その準備に着手したいと考えています。

関係者の皆様には、これまで以上のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。